

# 哲學論集

第47号 2000

追悼 武田武麿先生 ..... 門脇 健 (1)

## 論文

攻撃と犯罪 ..... 間庭充幸 (4)  
—方法論的考察—

同時代の「根源」へ ..... 須藤訓任 (27)  
—ニーチェ『ワーグナーの場合』を読む—

志向性・他者とその言語 ..... 紀平知樹 (58)  
—フッサール現象学における倫理的なものへの通路—

## 研究ノート

メヌ・ド・ビランにおける感覚の概念 ..... 棚井守 (72)

## 学会活動報告

大谷大学哲学会

# 大谷大学哲学会会則

## 第一条（名称）

本会は大谷大学哲学会と称する。

## 第二条（目的）

本会は、広義の哲学の研究と発表を行い、各学問領域の交流を盛んにして、学界に寄与することを目的とする。

## 第三条（事業）

本会は、下記の事業を行う。

- 1 会誌『哲學論集』の発行
- 2 その他必要な事業

## 第四条（会員）

本会の会員は、大谷大学哲學諸関連学科に所属する教員、大学院学生を中心にして、本会の趣旨に賛同する者とする。入退会は、第五条の2に定める委員会において、これを承認する。但し、三年分の会費を滞納した者は会員資格を喪失するものとする。

## 第五条（役員）

本会は、下記の役員を置く。  
1 会長 本会を代表し、運営における責任を負う。任期は2年とし、再任を妨げない。  
い。

## 第六条（総会）

2 学会委員若干名をもつて委員会を組織し、総会の決議に従い、本会の運営にあたる。任期は2年とし、再任を妨げない。

1 総会は、下記の事業を審議し、議決する。

会長及び学會員の選出

予算及び決算

事業方針

(二) その他必要な事項

2 総会は、会長が召集し、会員の3分の1以上の出席をもって成立する。

## 第七条（経費）

本会の経費は、会費（年額5000円。但し学生会員は、博士課程学生3000円、修士課程学生2000円とする。）及びその他の収入による。

## 第八条（会計報告）

各年度会計報告は、総会において行う。

## 第九条（会則の変更）

本会則の変更は、総会において出席者の2分の1以上の同意を必要とする。

## 第十条（附則）

- 1 本会則は、昭和54年4月1日より施行する。
- 2 昭和57年5月15日一部改正。
- 3 平成元年5月20日一部改正。
- 4 平成7年4月22日一部改正。

## 編集後記

ここに二〇〇〇年度の『哲學論集』第47号

を見る思いがする。

をお届けする。今は二〇〇一年の初頭、まさに世紀の変わり目、そして millennium と騒がれている年の年明けを迎えていた。この号に掲載させてもらつた諸論文のタイトルを拝見しても、時の流れ、時代の移り変わりというものを感ずる。そこには、新しい現象があり、新しい感覚があり、新しいアプローチがある。

改めて云うまでもないが、人とその世界は刻々と移り変わって行く。それが人の生きている事の証ではあるが、近年の激しい変化に身をさらしていると、「どこへ」という疑問が押さえがたく浮上してくる。この問いの新たな様相と複雑化について、研究の分野もテーマもアプローチも変化し複雑化する。当然と云えれば当然の事ながら、例年のごとく、各分野から提示された諸論文のテーマを見ていて、改めてこの感を深くし、学問が時代の子として負うべき任務と果たすべき責務の一面向

今回は、巻頭に、本会々員で本学名譽教授であつた武田武麿氏の追悼の辞を載せる事態になつた。氏の本会へのご尽力、本会に残されたご功績は計りがたく甚大である。その一端は、氏の力で、本誌第一四号の特集が刊行された事である。三年あまりの共同研究の積み重ねで漸く刊行できた特集である。その間の運動を支え前進させたのは氏の情熱のみであった。特集のテーマは「現代における人間の問題」である。ここには、学問の時代と共になる流行とそこに一貫する不易の両面が示されている。その後に、特集は組まれていない。そして、今もわれわれはこのテーマを追うてゐる。

(  
編集委員 堀尾・池上・滝口・関口  
村山・樹井・長尾・田中)

### 哲學論集

第47号

2001年3月15日印刷  
2001年3月17日発行

編集行  
編発

大谷大学哲学会  
代表者 谷 泰

〒603-8143  
京都市北区小山上総町  
大谷大学内(TEL 075-432-3131)

印 刷 (株)あおぞら印刷

# TETSUGAKU RONSHU

## THE PHILOSOPHICAL STUDIES

---

No. 47

2 0 0 0

---

The Late Professor ..... KADOWAKI Ken (1)

### Articles

Aggression and Crime ..... MANIWA Mitsuyuki (4)  
— Methodological Approach —

Zu einem „Ursprung“ der Moderne ..... SUTO Norihide (27)  
— Über Nietzsches *Der Fall Wagner* —

Die Intentionalität · das Andere und seine Sprache ..... KIHIRA Tomoki (58)  
— Der Zugang zum Ethische in der Phänomenologie Husserls —

### Notes

La conception de la sensation chez Maine de Biran ..... MASUI Mamoru (72)

### Announcements

---

THE OTANI PHILOSOPHICAL SOCIETY  
OTANI UNIVERSITY